

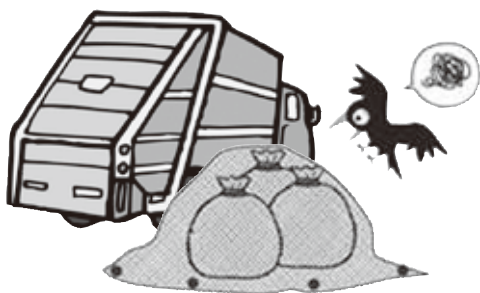
ごみの正しい出し方

夏のごみ出しの注意点

一般家庭のごみのうち約3分の1が、燃やせるごみの「生ごみ」で、その約80%が水分です。これから夏場にかけては、生ごみの体積や重量が増える季節になります。

ごみ集積所に出された生ごみがカラスなどにつつかれて散らかると、掃除当番の人や集積所付近の人の迷惑になります。また、思わず鼻をつまみたくなるような夏の生ごみ臭は、小バエやゴキブリなどの害虫がはびこる主な原因にもなります。

これらのことは、日頃から一手間を加えることで軽減することができますので、ご協力をお願いします。



生ごみ対策

- ①野菜の皮など使わない部分は先に剥くなど、なるべく生ごみをぬらさない。
- ②三角コーナーや水切りネット等を使ったり、絞ったりして十分水分を切る。
- ③コンポストや生ごみ処理機を活用する。
- ④水分や臭いを吸着するように、生ごみを不要な紙類に包む。
- ⑤保管するごみ箱は、通気性のよいものを使う。



ごみは必ず指定されたごみ集積所へ

すぐ近くの集積所だからといって、収集する品目が同じであるとは限りません。品目が違うと、収集できずにごみが放置され、近隣の住民の皆さんをはじめ多くの人に迷惑を掛けることとなります。指定された集積所以外

の場所には、ごみを出さないようにお願いします。



ごみを出す前にもう一度考えて

「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」の日に、プラスチック製のトレイや弁当容器、缶、飲食料品用のびん・ペットボトル、新聞、雑誌、ダンボール、飲料用紙パックなどがごみ集積所に出されているのを見掛けます。これらのごみは、資源として活用することによって、ごみを減らし、また限りある資源を有効活用することができます。

このままごみが増え続ければ、近い将来埋め立てる場所がなくなってしまう。「自分一人ぐらい」「まだまだ先の事だから大丈夫」

と考えるのではなく、一人一人が責任を持ってごみ問題について考えることが大切です。



それぞれの「資源の日」に集積所へ